



12
まいん

らんとうば
蘭塔場

三百余年の
銅山を見守る



現在の蘭塔場

らんとうば
蘭塔場は、別子銅山で事故や災害などにより亡くなった方々を弔うための墓所です。

開坑後3年の元禄7年(1694)に、焼鉱窯の飛び火が乾燥した山の草木と家屋に燃え移り、別子全山を焼く別子大火災が発生しました。



明治20年代の目出度町付近
左上石垣が蘭塔場 別子銅山記念館所蔵

この火災により支配人の杉本助七をはじめ132人の方々が亡くなりました。

住友家は、犠牲者の霊を弔うために、旧別子一帯が望める小高い岩山にコの字型に石積をした墓所を築きました。



蘭塔場から
牛車道を望む

大正5年(1916)の旧別子撤退に伴って、墓碑は新居浜市山根町の瑞応寺境内に移されました。

現在でも、毎年夏のお盆には蘭塔場に登り、手厚い供養が続けられています。新居浜ではお墓参りに行くことを「お蘭塔さんへ行く」とも言います。



蘭塔場内部の様子

